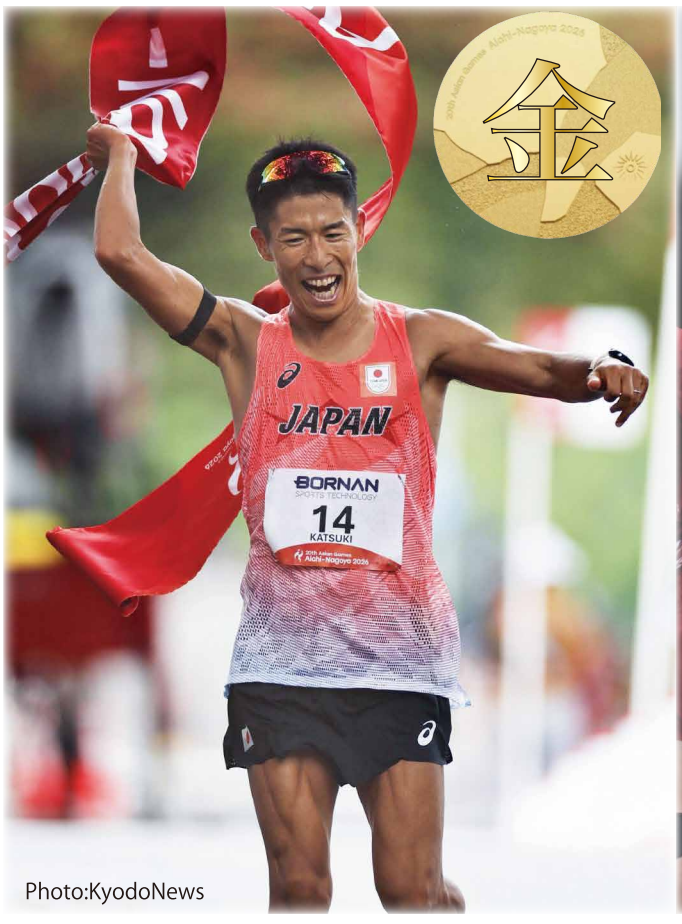
第２０回アジア競技大会

９競技２７名参加







令和８年９月１９日（土）から１０月４日（日）までの１６日間、愛知県名古屋市を主な会場として開催された「第２０回アジア競技大会（２０２６／愛知・名古屋)」に、自衛隊体育学校から９競技２７名の選手が日本代表として出場し、金メダル３個、銀メダル２個、銅メダル６個の７種目で合計１１個のメダルを獲得した。



陸上

男子マラソン競歩に出場した陸上班の**勝木隼人**（かつきはやと）１等陸尉は、スタート直後から集団の先頭に立つと１km ずつ重ねる周回を常に先頭でレースを引っ張った。途中、沿道の声援に手を振って応える余裕すら見せた。レース終盤には多くの選手がペナルティーの累積で次々とペナルティーエリアに入れられる中、正確なフォームで順調に周回を重ねる勝木１尉。最終周回では笑顔で沿道の応援に対してガッツポーズを見せて２位に３分以上の差をつけてゴールテープを切り、金メダルを獲得した。

試合後､勝木１尉は｢あたたかい応援のおかげで大会史上初の個人種目連覇を達成することができた。今回のタイムには満足していない。この悔しさを糧にさらなる強化を目指し精進していく。」とレースを振り返った。

女子ラグビー

女子７人制ラグビーに出場したラグビー班の**梶木真凛**(かじきまりん）３等陸尉と**秋田若菜**（あきたわかな）３等陸曹は、予選リーグ初戦となるシンガポール戦に揃ってスターティングメンバーに入った。初戦では秋田３曹がトライを決め、３６－５と勝利に貢献する活躍を見せた。続くカザフスタン戦では梶木３尉が２トライを決める活躍で４８－０と快勝し、翌日のタイ戦も３４－５で勝利し予選リーグ首位通過を決めた。最終日の準決勝ではホンコン・チャイナと対戦し２７－１２で勝ち上がり決勝進出を決めた。決勝の相手は前大会決勝で敗れている中国。この大一番でも梶木３尉は勝負強さを発揮しトライを決め、１０－５で競り勝ち見事リベンジを果たし金メダルを獲得した。

大会後、全試合に出場し通算５トライを決めた梶木３尉は「金メダルを獲得できてとても嬉しい。支えてくださる皆さまへの感謝を胸に、更なる高みを目指して努力を続けていく。」と振り返り、２トライを決めた秋田３曹も「チーム一丸となって金メダルを獲得できたことを大変嬉しく思う。応援してくれた方々への感謝を忘れず、さらなる成長を目指し頑張っていく。」と語った。





自衛隊体育学校
PHYSICAL TRAINING SCHOOL

公式ＨＰ



レスリング

男子フリースタイルレスリング８６kg級に出場したレスリング班の**石黒隼士**（いしぐろはやと）３等陸尉は、１回戦を４－２の接戦を制すと、その後は１０－０のテクニカルスペリオリティで決勝まで駒を進めた。決勝戦はイランの強敵モハンマド選手との対戦となった。相手の優勢で迎えた終盤、意地の追い上げを見せたがあと一歩及ばず結果は６－９の惜敗となった。しかし日本勢として４０年ぶりの銀メダルを獲得し、強豪ひしめく階級で決勝まで上り詰めた石黒３尉の強さを改めて世界に知らしめた。

試合後、石黒３尉は「接戦で負けたことは悔しいが、収穫のある大会になった。今大会での反省を生かしロス五輪で優勝する。」と試合を振り返った。

カヌー



カヌー男子５００ｍカヤックペアに出場したカヌー班の**田中政弥**（たなかまさや）２等陸曹は、棚田大志選手（米良電機産業）とペアを組み日本勢として３６年ぶりの銀メダルを獲得した。また、前日に行われた男子５００ｍカヤックフォア（４人乗り）においても銅メダルを獲得した。

アジア大会で二つのメダルを手にした田中２曹は、「今シーズンはアジア大会での金メダル獲得を目標にしていたので２種目でメダルを獲得できたが結果には満足していない。この悔しさをバネに更に力をつけてオリンピックで活躍できるよう頑張る。」と大会を振り返った。



ボクシング

ボクシング男子６０kg級に出場したボクシング班の**北本隼輔**（きたもとしゅんすけ）３等陸尉は、１回戦から危なげなく５－０のポイント勝ちで準決勝まで勝ち上がりメダルを確定させた。決勝進出をかけた準決勝では、パリ五輪金メダリストのハロコフ選手（ウズベキスタン）相手に惜敗し銅メダルとなったが、世界トップレベルの強豪を相手に大健闘を見せた。

大会後、北本３尉は「初めてのアジア競技大会は満足できる結果ではなかったが、メダルを獲得することができたのも応援・支援してくださった皆さまのお陰だと感謝している。ロサンゼルス五輪では金メダルを獲れるよう精進していく。」と振り返った。

射撃



９月２２日に行われた１０ｍエアライフルミックス（男女混合）に**花川直樹**（はなかわなおき）３等陸尉と野畑美咲選手（トランスコスモス）が出場し、銅メダルを獲得した。１７カ国が出場し、予選上位４カ国が決勝に進んだ。当初日本チームは予選５位の得点だったが、４位につけたベトナムチームがウェアの違反により失格となり、日本チームが４位で決勝に進んだ。同日行われたファイナルでは、第１ステージ終了時２位につけていたが、第２ステージの２回目の射撃で３位だった韓国に０.４ポイント差で逆転を許してしまい最終順位を３位とし銅メダルを獲得した。

試合後、花川３尉は「日頃から応援やサポートしてくださっている方々にメダルという形で恩返しすることができた。これからも世界一を目標に精進していく。」と感想を述べた。



男子１０ｍエアピストル個人に出場した**岩佐正貴**（いわさまさき）３等陸曹は、６０名の選手がいる中で上位８枠の決勝進出をかけて予選を戦った。エアピストルは１時間１５分という時間内に６０発を撃って合計点を競う競技。岩佐３曹は予選１３位となり決勝進出は叶わなかったが、１４位の中山惇之丞選手（岡山商科大）及び１５位の森川清司選手（広島県警）の３選手の合計得点が団体として３位となり、銅メダル獲得に大きく貢献した。

試合後、岩佐３曹は「初のアジア大会で銅メダルを獲得できて嬉しい。支えてくださった皆さまに感謝し、さらなる成長を目指す。」と感想を述べた。

近代五種





アジア競技大会開会式に先立ち競技が開始された近代五種競技は、フェンシングシーディングラウンドから始まり、予選・決勝と３日間にわたる戦いとなった。各国上位３名の合計点数で順位が決まる団体戦で日本女子が３位となり銅メダルを獲得した。

内田美咲（うちだみさき）３等陸曹は初日のフェンシングを１５位で終え準決勝Ａに進むと、翌日の準決勝では得意とする水泳でグループ１位のタイムによりＡ組３位で決勝に進出した。迎えた決勝においても水泳で全体トップのタイムを叩き出し６位入賞を果たした。

矢野佑歩（やのゆほ）３等陸曹はフェンシングを２１位で終え準決勝Ｂに進むと、準決勝ではレーザーラン１位、水泳２位、フェンシング４位とまとめてＢ組１位で決勝に進出した。決勝でも得意とするレーザーランを１位、水泳を２位としたものの、その他の種目で力を発揮できず１０位で競技を終えた。

日本女子は６位の内田３曹、９位の才藤歩夢選手（マイナビ）、１０位の矢野３曹の合計得点で銅メダルを獲得し、体育学校として今大会メダル第１号となった。

大会後、２大会連続でメダルを獲得した内田３曹は「銅メダルが獲得できたのは、団体の仲間をはじめ応援・支援してくださった皆さまのおかげで、心から感謝している。」と大会を振り返った。矢野３曹も「皆さまの支えがあってこそつかめたメダルだと感じている。感謝を忘れず、課題に向き合い成長していく。」と大会を振り返った。



2等陸曹　山本泰輝



2等陸尉　田口綾華



2等陸曹　鳥谷部魁



2等陸尉　山田聡子



3等陸尉　堀之内愛



2等陸曹　遠藤雅也



3等陸曹　武内響



3等陸曹　中川花論



陸士長　小関賢登



2等空曹　安部希美



1等陸曹　三浦玲央



3等海尉　佐藤大宗



3等陸曹　鈴木結理



3等陸曹　冨田洋輔



3等陸尉　佐藤光



2等陸曹　熊井実央



2等陸曹　吉田俊吾

金 3　銀 2　銅 6

あたたかいご声援ありがとうございました。



自衛隊体育学校
PHYSICAL TRAINING SCHOOL

公式ＨＰ